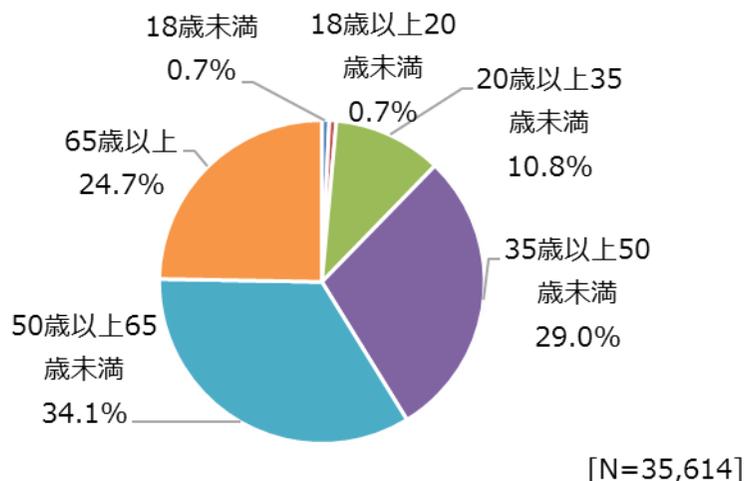


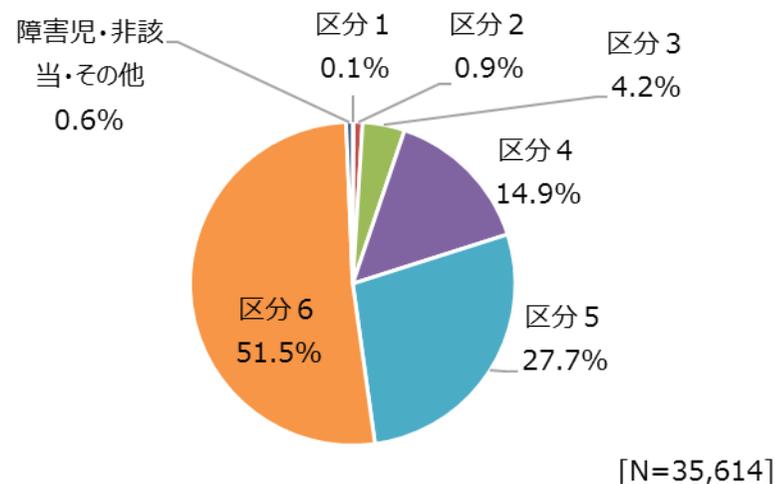
施設入所支援の利用者の年齢別・障害支援区分別・障害特性別構成比

実利用者数は、平均で52.6人、年齢区分は50歳以上65歳未満が多くなっている。

年齢別



障害支援区分別



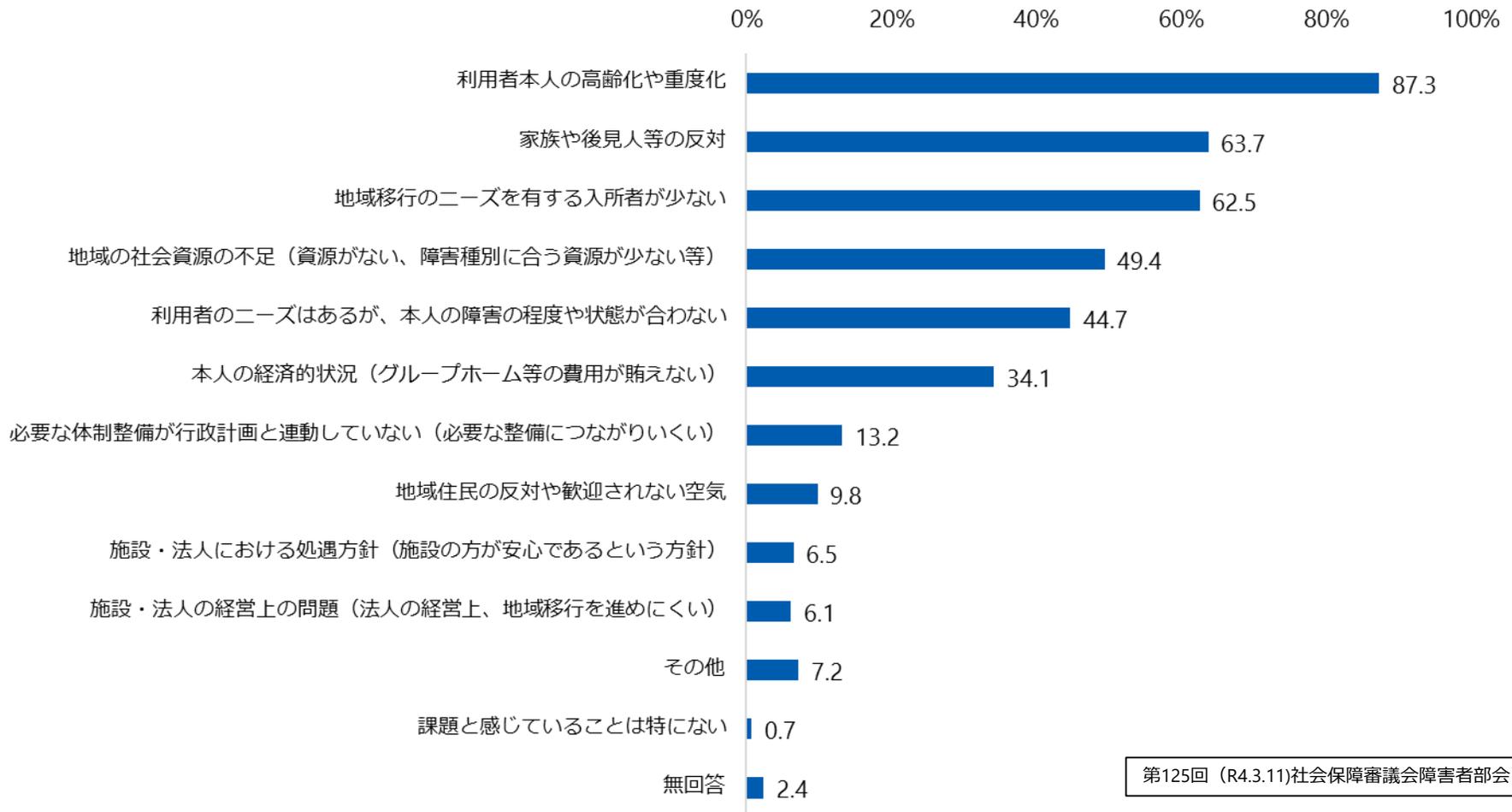
障害特性別



「障害者支援施設における地域移行の実態調査及び意思決定支援の取り組み推進のための調査研究事業」(令和2年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業)

入所者の地域移行を進める上での課題（上位5つまで） ※施設職員の回答

調査対象 2544施設
回答施設 992施設(回答率39.0%)

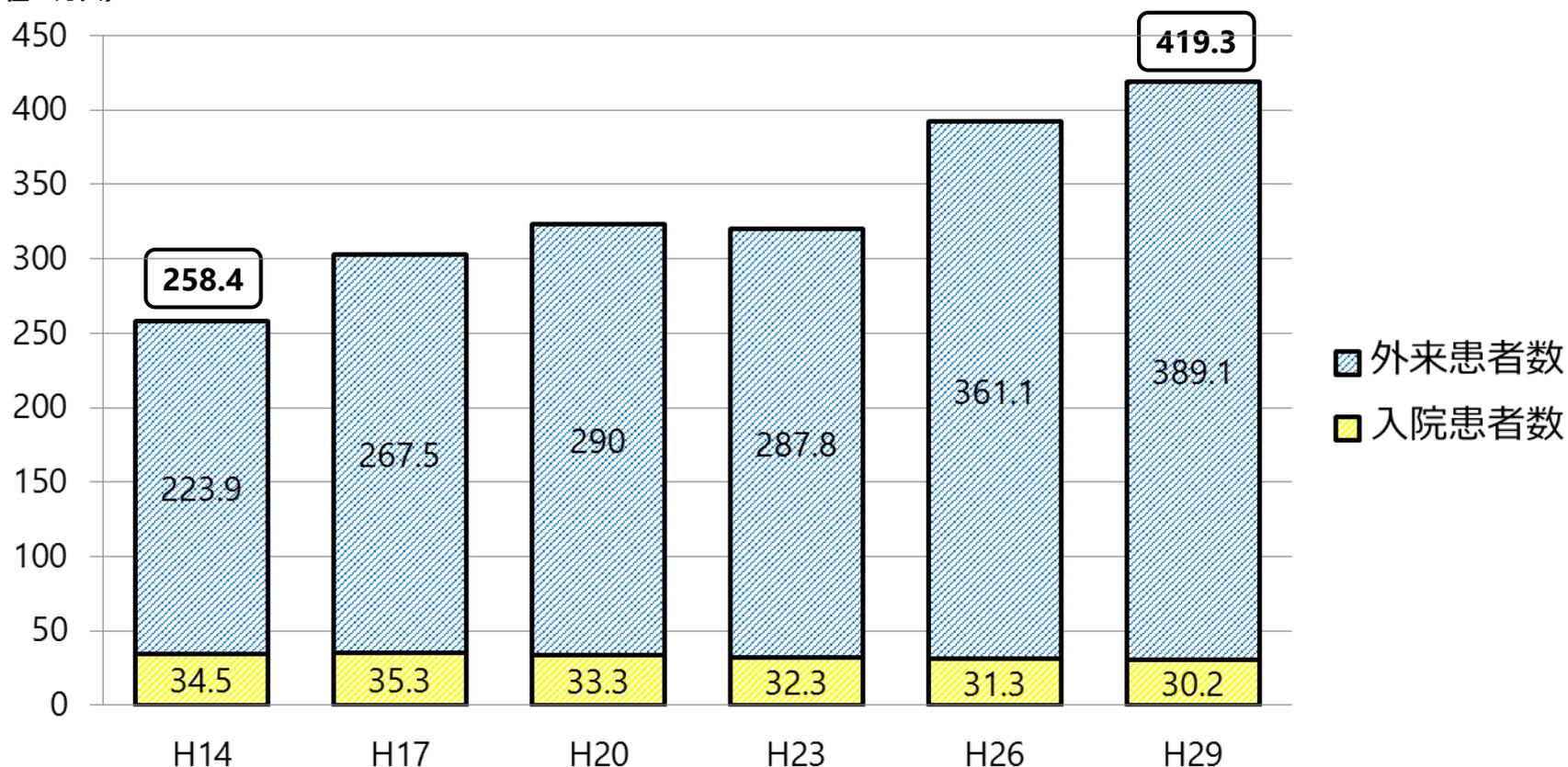


第125回 (R4.3.11) 社会保障審議会障害者部会 資料1より

精神疾患を有する総患者数の推移

- 精神疾患を有する総患者数は約419.3万人【入院：約30.2万人、外来：約389.1万人】
 - ※ うち精神病床における入院患者数は約27.8万人
- 入院患者数は過去15年間で減少傾向（約34.5万人→30.2万人【△約4万3千人】）
一方、外来患者数は増加傾向（約223.9万人→389.1万人【約165万2千人】）

(単位：万人)



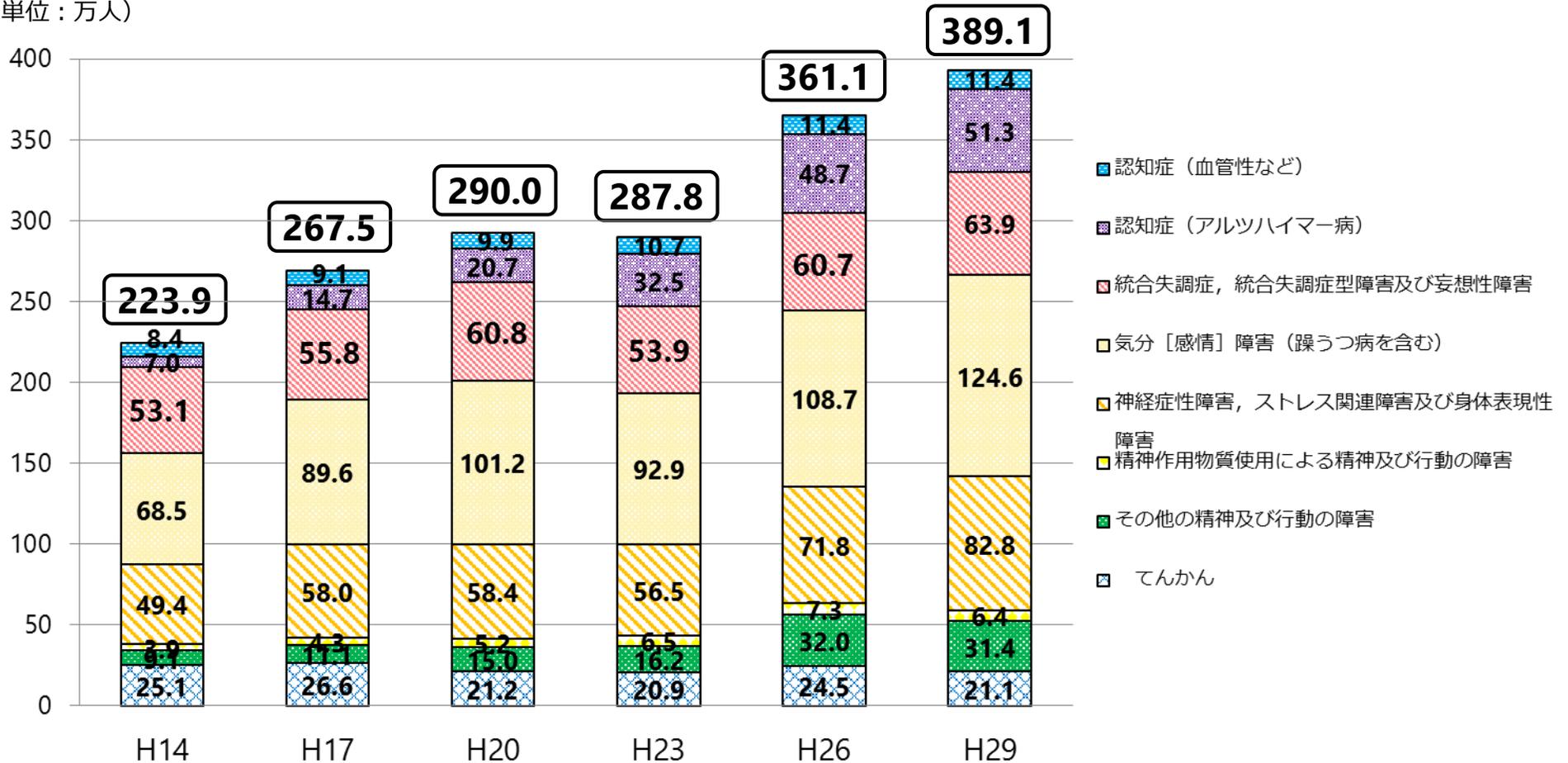
※H23年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている

資料：厚生労働省「患者調査」より作成

精神疾患を有する外来患者数の推移（疾病別内訳）

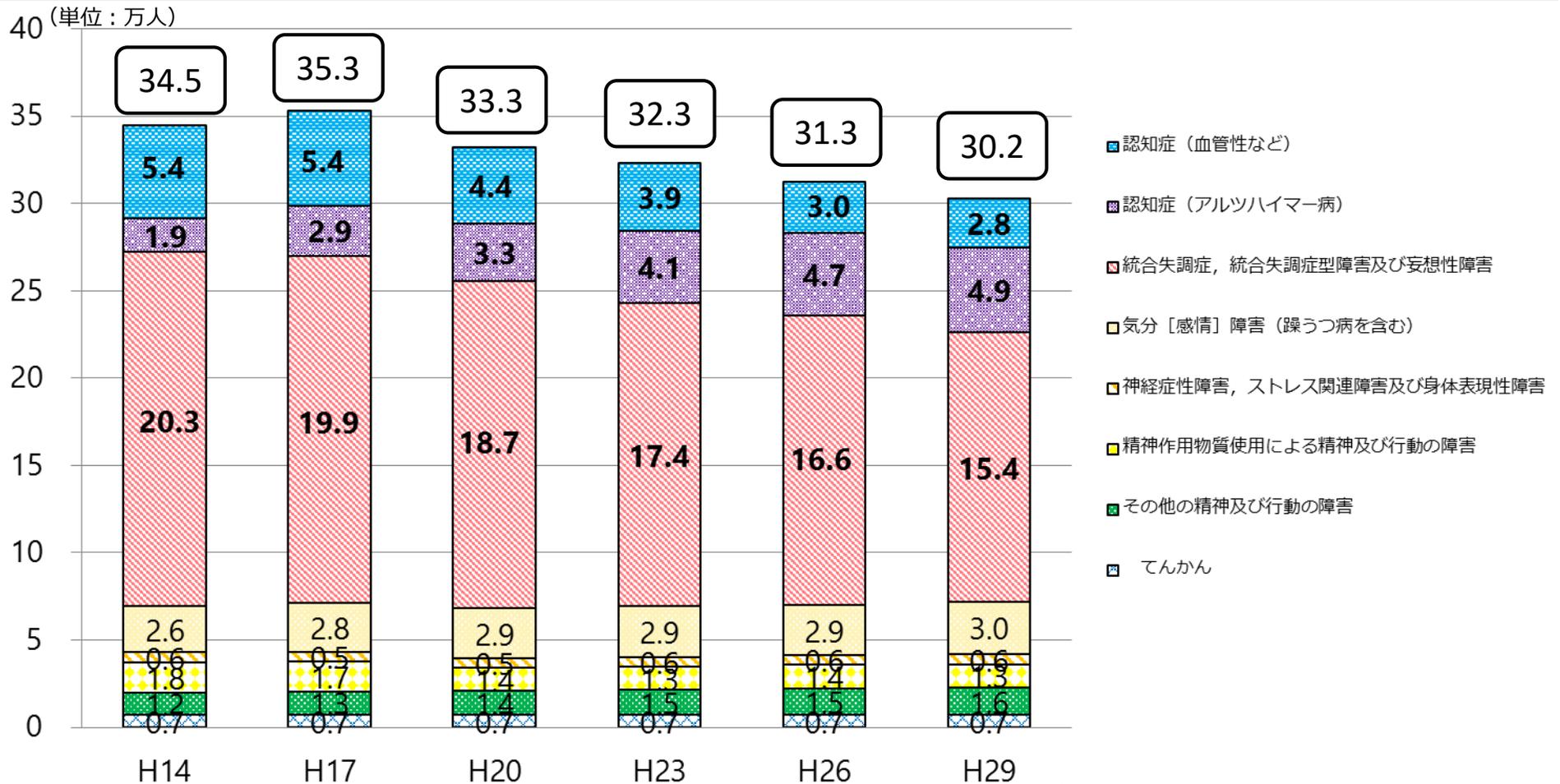
○ 精神疾患を有する外来患者数は、疾病別にみると、特に認知症（アルツハイマー病）が15年前と比べ約7.3倍、気分[感情]障害（躁うつを含む）が約1.8倍、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害が約1.7倍と増加割合が顕著である。

(単位：万人)



精神疾患を有する入院患者数の推移（疾病別内訳）

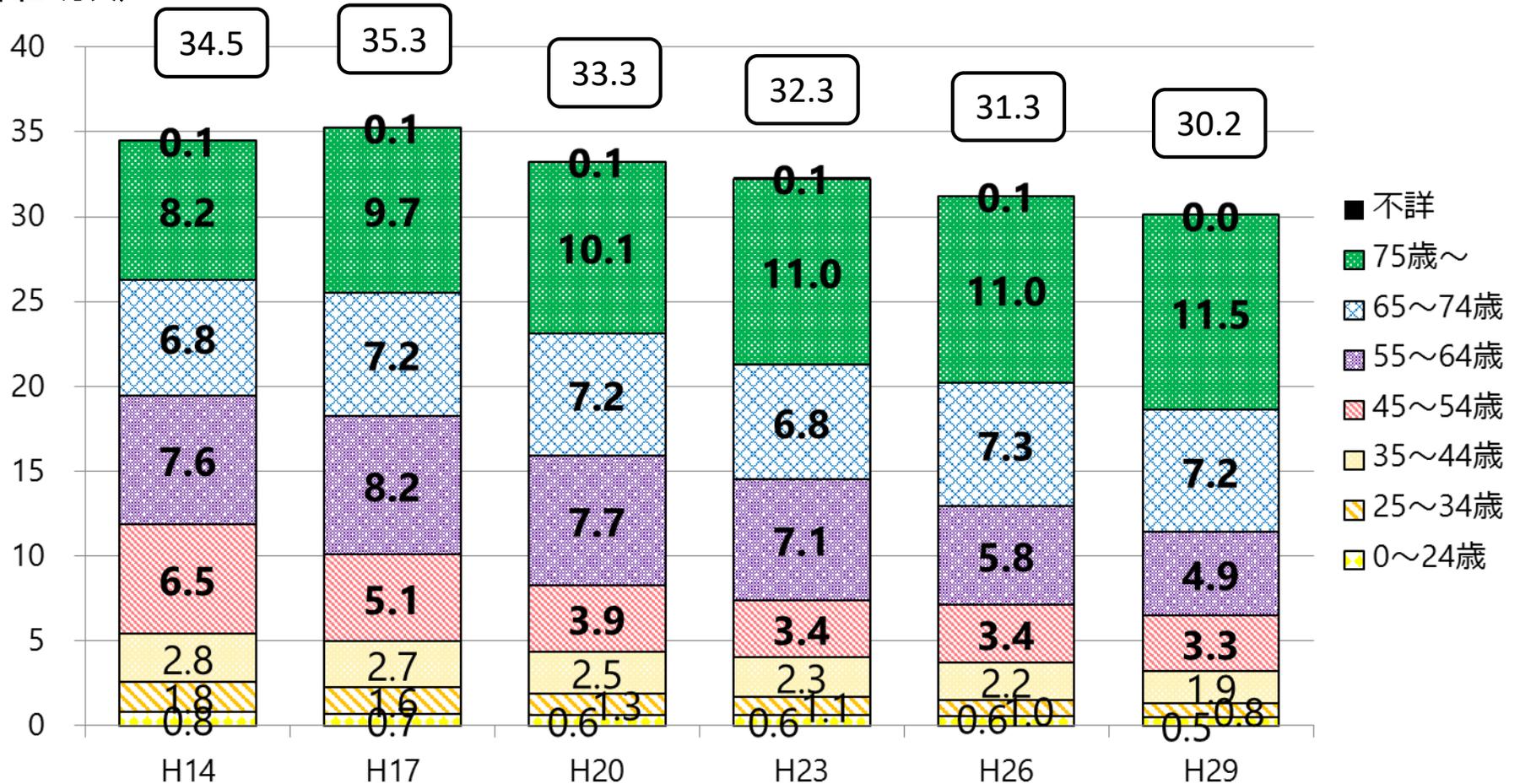
- 精神疾患を有する入院患者の総数は減少している。
- 疾病別にみると割合として最大の疾病は統合失調症であるが、統合失調症の患者数は減少傾向である。
- 認知症（アルツハイマー病）の患者数は増加している。



精神疾患を有する入院患者数の推移（年齢階級別内訳）

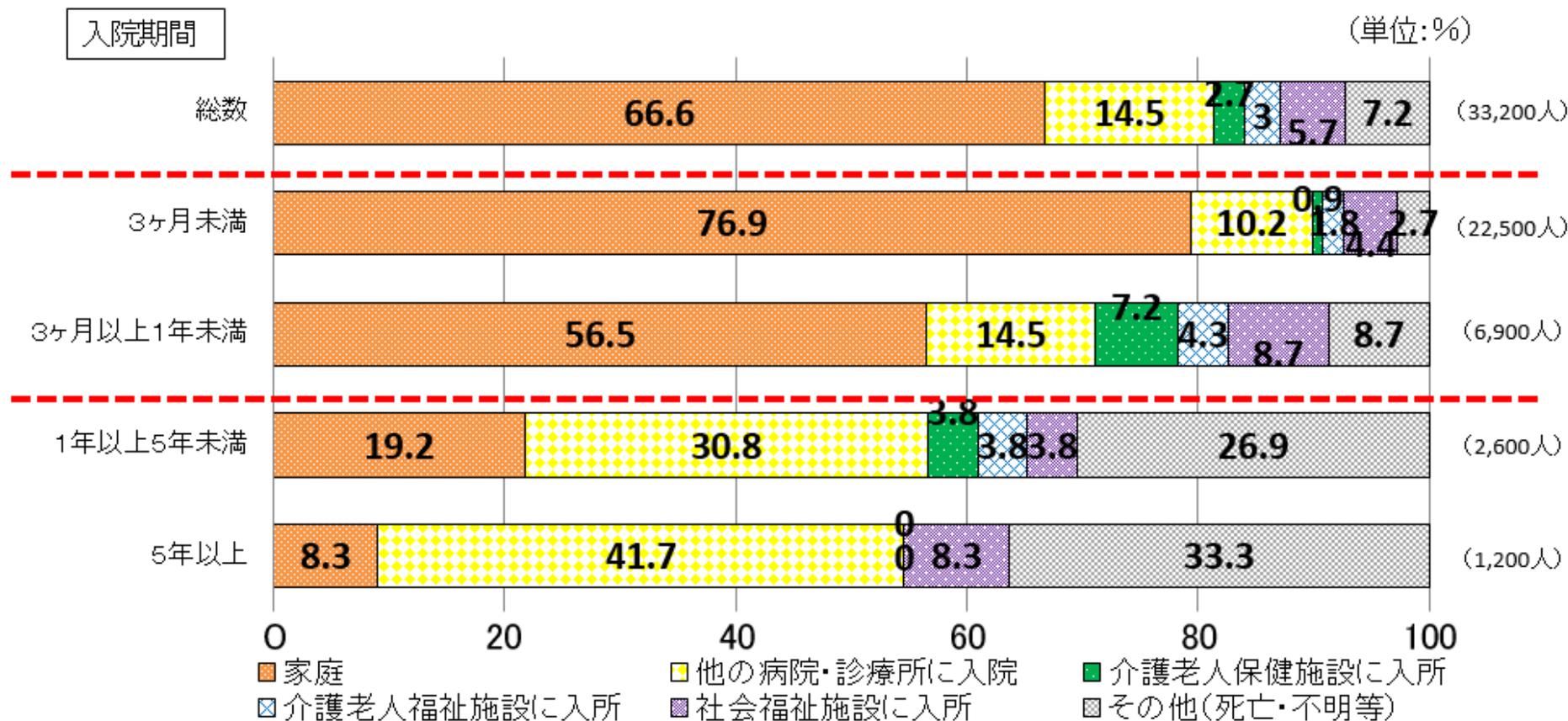
○ 精神疾患を有する入院患者数は、年齢階級別では、65歳未満の入院患者数は減少傾向であるが、65歳以上は増加しており、特に後期高齢者（75歳以上）の入院患者数は15年前と比べ約1.4倍と顕著である。

（単位：万人）



平成29年 精神病床退院患者の退院後の行き先

- 精神病床からの退院患者の退院後行き先としては、総数としては「家庭」が最も多く、次いで「他の病院・診療所に入院」となっている。
- しかしながら、入院期間別にみると、「3ヶ月未満」及び「3ヶ月以上1年未満」入院していた方は退院先として「家庭」が半数以上を占める一方、「1年以上5年未満」及び「5年以上」入院していた方は退院先として「他の病院・診療所に入院」が最も高い割合を占めている。

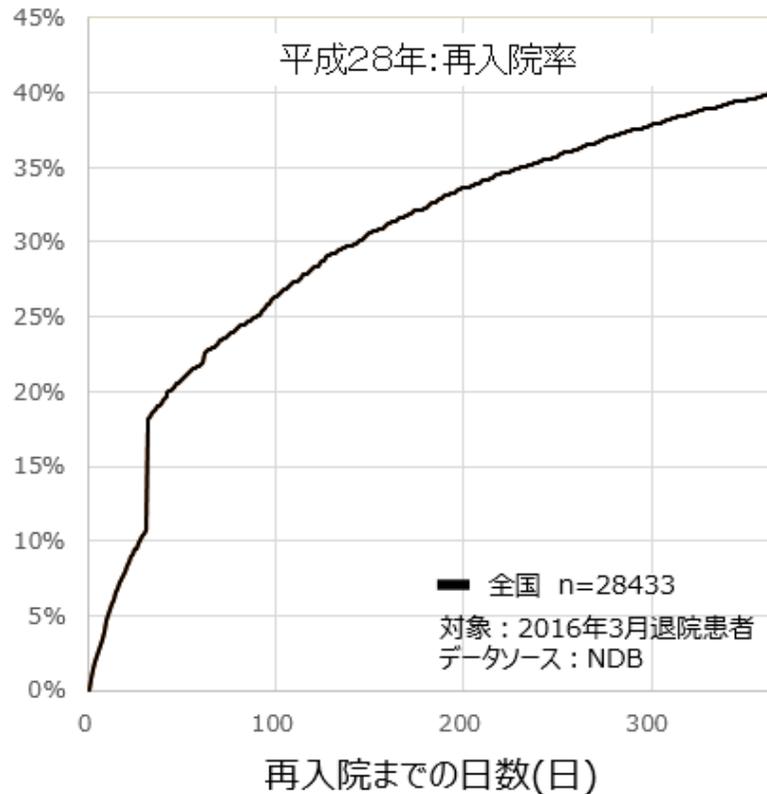


資料：厚生労働省「患者調査」より作成

なぜ精神障害にも地域包括ケアが必要か②

- 精神病床からの退院者の約4割が1年以内に再入院している。
- 精神障害者の多くが必要な地域サービスを十分利用できていない。

精神病床からの退院者の再入院率



出典:平成29年新精神保健福祉資料(全国)

重症精神障害者の退院後の地域サービス利用状況

•3つの精神科病院における新規入院者で、スクリーニング調査により、包括的支援が必要とされた者のうち、退院後に居住地区における地域サービスを利用していた者の割合は

•約33%

山口創生 他:重症精神障害者における退院後の地域サービスの利用状況とコスト:ネステッドクロスセクショナル調査. 精リハ誌, 2015



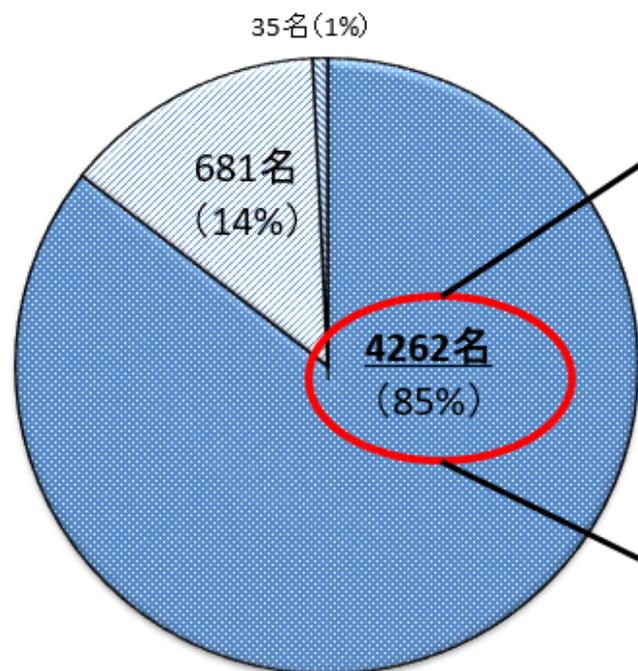
平成30年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業

第1回 都道府県等担当者会議(H30.5.28)資料より抜粋

精神科病院における1年半以上の長期入院患者（認知症を除く）の退院可能性、退院困難理由

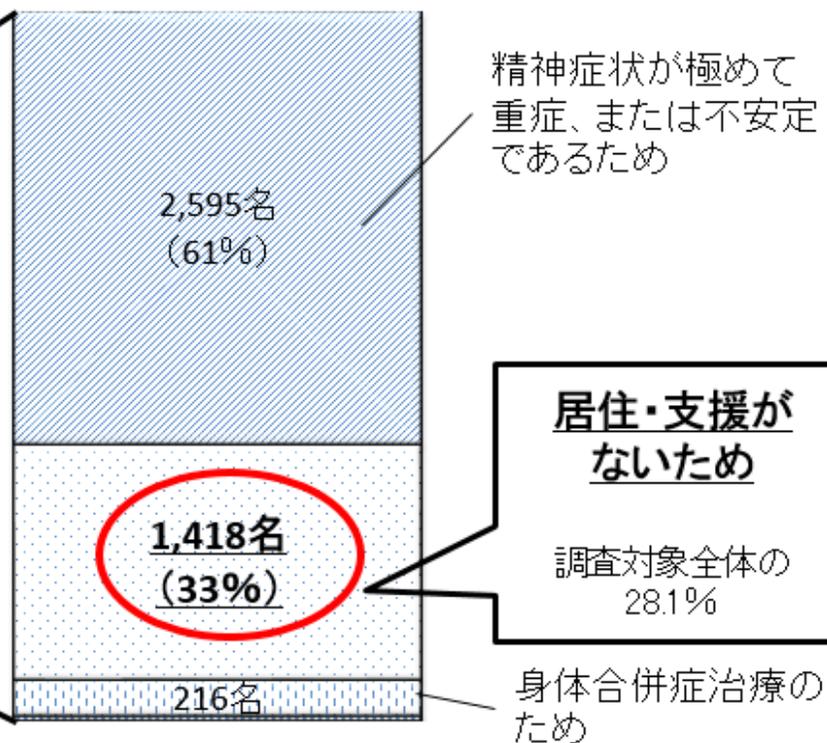
- 1年半以上の長期入院者のうち、14%は「退院可能」とされている。
- 退院困難とされた者のうち、3分の1は、居住・支援がないため退院が困難とされている。

調査日時点の退院可能性



■ 困難 ■ 可能 ■ 無回答

退院困難理由



精神症状が極めて重症、または不安定であるため

居住・支援がないため

調査対象全体の28.1%

身体合併症治療のため

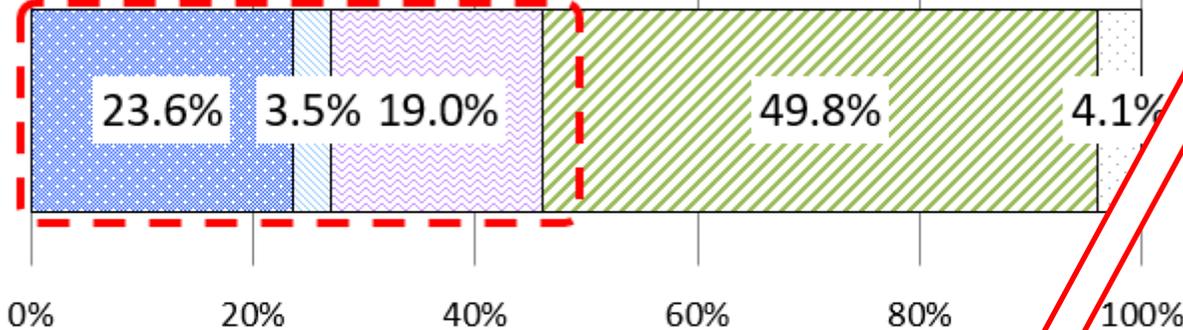
出典：平成24年度厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業
 「新しい精神科地域医療体制とその評価のあり方に関する研究」

なぜ精神障害にも地域包括ケアが必要か④

精神療養病棟に入院する患者の退院の見通し

○ 精神療養病棟に入院する患者の約1/2が、在宅サービスの支援体制が整えば退院可能とされている。

精神療養病棟入院
患者(n=1409)

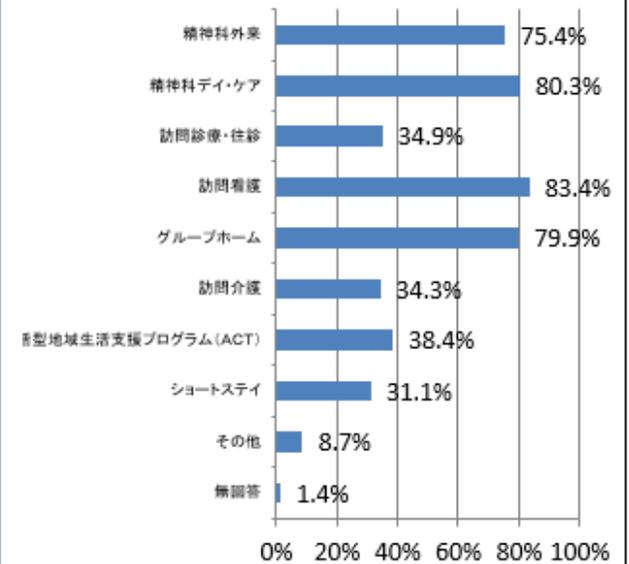


- 現在の状態でも在宅サービスの支援体制が整えば退院可能
- 在宅サービスの支援体制が新たに整わずとも近い将来退院可能
- ▣ 在宅サービスの支援体制が整えば近い将来に退院可能
- ▨ 状態の改善が見込まれず将来の退院を見込めない
- 無回答

平成27年10月23日
中医協総会資料より編

基盤整備が必要

精神療養病棟の入院患者が、地域へ移行する上で重要となる事業・サービス等
(精神療養病棟入院料算定病棟、複数回答、n=289)



6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査